

れている。

一方、変敗油の利用についての研究はほとんどなく、調理加工で使い古された、大きな食用資源の放置されやすい現状にかんがみ、大阪周辺の土から、炭化水素資化性酵母を分離し、これを用いて、変敗油に対する、菌発育の可能性を検討したので報告する。

2. ケロシンと流動パラフィンを炭素源とする液体培地50mlを、500mlの肩付フラスコにとって、殺菌の後、土を投入し、第1集殖培養、平板培養、第2集殖培養、平板培養の後、ピュリティテストを経て、ストックをえ、炭化水素資化性細菌および酵母を分離した。この酵母を、変敗油を炭素源とする液体培地に移植して、どのように変敗油を利用するかを検討し、特に過酸化物質と、カルボニル価等が、酵母の変敗油利用度に及ぼす影響をみた。

3. ケロシンと流動パラフィンを、炭素源として生育する酵母を、土から分離し、未利用資源、変敗油を炭素源とする液体培地に著しく増殖するのをみた。しかし、過酸化物質、カルボニル価等が、生育阻害に関係するので、これらを除去する意義も大きい。このようにして、変敗油を原料に、酵母をうる条件を探索するとともに、培養液の放った芳香から、培地中に生成される代謝産物の、探究と利用についても、今後考えてみたい。

#### A-88 炭化水素資化性菌の食用油脂に対する挙動(第1報)—変敗油に対する増殖状況—

相愛女短大 ○小原 国彦  
玉置ミヨ子

1. ハイドロカーボンを炭素源として生育する炭化水素資化性菌に関する研究は、最近急激に進歩し、いわゆる“石油をたべ物にする”ということが、大きく期待さ